

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 7 月 1 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22500537

研究課題名（和文） 諸外国の体育教育システムに関する研究—開発途上国を中心に—

研究課題名（英文） A Study on Physical Education System in Foreign Countries

- Focusing on Developing Countries -

研究代表者 齊藤 一彦 (SAITO KAZUHIKO)

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：60413845

研究成果の概要（和文）：本研究はこれまで我が国においてなされた開発途上国の体育事情についての研究の動向を明らかにしながら、開発途上国の体育教育システムの特質性を検討することを目的として行われた。特に研究方法毎、年代毎、地域毎に研究成果を分類しながら、開発途上国の体育教育システムの特質性を導出しようと試みた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to investigate the trends of research on physical education situations in developing countries conducted in Japan and to organize the physical education systems in those countries. The results are particularly divided by research method, time period and region to clarify the characteristics of the physical education systems in developing countries.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：スポーツ教育学

科研費の分科・細目：身体教育学

キーワード：開発途上国、体育教育事情

1. 研究開始当初の背景

諸外国の体育事情についての研究は、19世紀以降に盛んになり、特にオリンピック競技が外国の体育やスポーツに対する興味を引

き出し、第二次世界大戦後、独自の学問的分野として注目を浴びるようになってきている。諸外国の体育事情をまとめてあるものとしては、文部省（1968）『外国における体育・スポーツにおける現状』や国立教育政策研究

所 (2003) 『体育のカリキュラムの改善に関する研究—諸外国の動向—』、外国文献では Human Kinetics Publishers, Inc 『Comparative Physical Education and Sport』 (1978~1988年に5巻にわたって出版) や、Uwe Puhse 他 (2005) 『International Comparison of Physical Education: Concepts, Problems, Prospects』などを始め、数点存在している。これらはいわゆる先進国を対象とした研究が多く、開発途上国に関しては、研究自体が少ない上に、それを取りまとめた研究・報告などはほとんど存在しない。その理由としては、資料の入手が困難であることが指摘されている。開発途上国の体育事情についての整備された資料がないことは、比較教育的に諸外国全体の体育事情を総括する際にも、或いは国際協力的に開発途上国の体育事情を分析する際にも、障壁になっているのが現状である。そこで、本研究では諸外国、特に、開発途上国の体育教育システムについての研究を整備し総括する検討を行った。

2. 研究の目的

上述の問題意識に鑑み、本研究では、これまで我が国においてなされた開発途上国の体育事情についての研究の動向を明らかにしながら、開発途上国の体育教育システムの特質性を検討することを目的とした。

特に研究方法、年代毎、地域毎に学術論文や報告を整理し、開発途上国の体育教育の特質性を導出しようとした。

3. 研究の方法

これまで我が国においてなされた開発途上国の体育事情の研究、報告を可能な限り全て収集し、研究の動向を分析した。資料収集は、「日外アソシエーツ」から発刊されている教育系・体育系の文献目録に加え、「不昧堂」から発刊されている『体育学研究文献目録』などを用いた。さらに国立国会図書館『雑誌記事索引カレント版 CD-ROM』、NDL-OPAC、国立国会図書館、蔵書検索システム、JICA 図書館図書目録検索システム、CiNii 論文情報ナビゲータをはじめとする web 版の検索サイトなど数多くの検索を実施した。数多くの研究報告がなされている雑誌等については、それぞれ発刊以降、全ての目次を検索し、資料検索を行った。更に対象国によっては著者が限られている状況であったため、著者別検索を「J-GLOBAL」や所属先の研究業績一覧などから行き、研究・報告の収集・分析を行った。

また、資料から把握できない事情については、開発途上国の体育・スポーツ界に派遣している青年海外協力隊事業にも着目し、当該事業の担当者とのインタビュー調査や隊員報告書などの閲覧も行った。これらの方法にて収集した研究・報告を精読し、それぞれの研究手法、年代、地域などを整理しながら、各国の事象などをまとめ、開発途上国の体育教育システムの共通性や特殊性についても検討を行った。

4. 研究成果

諸外国の体育事情をまとめてある書籍としては数点存在するものの、その多くは各国

別に書かれたものを編集したスタイルであり、比較研究などの方法を用いて体育教育システムを包括的に検証したものはほとんど見当たらなかった。これまでに報告が最も多く見られたのは「体育の科学」「体育科教育」などの月刊誌であったが、視察報告、旅行記などのスタイルで記述されたものが多く、体育教育システムについて解明しているものは少なかった。学術的・専門的立場からの研究論文や報告となると、著者、対象国が限定されている状況であった。中国については笹島恒輔の研究が多数あり、他のアジア諸国は、宇佐美隆憲、時本識資らがミャンマーについて、岡田千あきがカンボジアについて、松岡重信がネパールについて一連の研究を実施している。アフリカ地域については、木村寿一によるジンバブエの研究があり、他は舞踊関係についての研究がわずかに見られる程度である。中近東地域は齊藤一彦がシリア及びアラブ諸国について行なった研究以外は、女性のスポーツ現象に焦点を当てた報告が散見される程度である。オセアニアやラテンアメリカとなると研究・報告がほとんど見当たらない。

開発途上国の体育事情研究を年代的に見てみると、1970年代から80年代にかけて、前述の「体育の科学」「体育科教育」で取り上げられた後、1990年代以降は、両雑誌での取り扱いが減少し、その一方で学術論文での取り扱いが増加する傾向にあった。また、研究目的や研究方法別にみても、1980年代までは旅行記、視察報告などの形で書かれたものが多く、90年代からは体育・スポーツ分野の国際協力活動との関連で研究されているものが増えつつあり、特に近年では、体力・運動能力事情に焦点を当てた研究が増加しつつある。

これらの資料分析から、開発途上国の体育

教育システムの特徴を導出しようと試みた。前述の一連の報告から、「学校体育が教育制度上位置づいていなかったり、位置づいていても十分に実施されていない」ケースや「予算・施設上の大きな課題」「国策としての意識の低さ」など各国ほぼ共通の状況は見られる。しかし、詳細をみると、同じ国内でも地域差が相当に大きく、一国としての特徴として整理することが困難な状況や、時間の経過や政権交代等で、時系列な状況変化も大きいことも明らかとなった。これらのことから、学術研究や報告などから開発途上国の体育教育システムを総括することには限界があることが浮き彫りとなった。こうした状況の中、開発途上国の体育教育事情の実態を最も詳細に把握する方法としてこの50年弱にわたり3,000近く開発途上国に派遣されている体育・スポーツ分野の青年海外協力隊員が記した報告書や、それを取りまとめている青年海外協力隊事務局内の体育・スポーツ部門の担当者（技術顧問）からの情報収集が有効であることが改めて示唆された。今後、当該研究を進める上で、これら関係機関との連携や協力体制の構築が必要であろう。また、研究方法上の課題として、当該研究の周辺領域にある研究、例えばスポーツ人類学での成果との境界の設定の困難さ、すなわち「体育教育事情」の示す範囲をどう捉えるかといったことも小さくない問題として挙げられよう。今後も開発途上国の体育事情については、外国教育学、比較教育学、国際協力学などの観点から学際的にアプローチしていく必要があると思われる。

尚、これらの研究成果については下記の雑誌論文、学会発表、図書等に取りまとめて報告を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 齊藤一彦 「体育科教育学と開発途上国のスポーツ教育」体育科教育 9月号、2010年7月、査読無、64-65頁。

[学会発表] (計3件)

- ① 齊藤一彦 企画セッション「開発におけるスポーツの新しい役割」国際開発学会第13回春季大会の企画セッションにて討論者として発表、2012年6月2日、横浜国立大学(神奈川県)
- ② 齊藤一彦・渡部隼二・岡田千あき「開発途上国のスポーツ教育事情に関する研究」日本運動スポーツ科学学会国際健康スポーツ分科会第9回大会、2011年9月3日、JICA横浜(神奈川県)
- ③ 齊藤一彦 「開発途上国のスポーツ教育事情についての研究動向」スポーツを通じた開発研究会、2010年12月22日、大阪大学(大阪府)

[図書] (計1件)

- ① Kazuhiko Saito “Japan’s Assistance to Developing Countries in the Fields of Physical Education and Sport” Chapter 29 (Chapter Author) In Gilbert, K. & W. Bennett Sport, Peace and Development, Common ground Publishing, Illinois, U.S.A pp. 395-407, 2012. 11.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齊藤 一彦 (SAITO KAZUHIKO)
金沢大学・学校教育系・准教授
研究者番号：60413845